

研究機関：広島大学

【ヒトゲノム・遺伝子解析研究】

研究課題名	肝がん臨床腫瘍検体と血液検体を用いたレンバチニブの腫瘍環境に対する影響に関する後ろ向き研究
研究責任者名	大学院医系科学研究科医療イノベーション 共同研究講座教授 茶山 一彰
研究期間	承認日 2020年7月13日～2023年3月31日
対象者	2018年4月から2022年3月の間に、広島大学病院消化器・代謝内科で肝癌のレンバチニブを用いた分子標的治療を受け、病理検体が保存されている20歳以上の患者さんを対象とします。
意義・目的	がんにおいては、特徴的なゲノム変異が抗がん治療や免疫治療の効果の違いや、耐性形成に関係していることがわかってきましたが、肝がんについては解明されていません。この研究では、抗がん治療の効果と関連するゲノム異常やゲノム異常に伴って生じる腫瘍環境の免疫状態の特徴、治療中の変化を見つけ出すことを目的としています。これらの情報は、今後のがんの治療開発にきわめて有用な情報となる可能性があります。
方法	本研究は、ヒトゲノム・遺伝子解析研究です。レンバチニブを用いた分子標的治療の実施前後に手術、あるいは腫瘍生検によって摘出された肝がん組織の一部と、保存血液を試料として用います。また診療録（カルテ）から得られる情報（性別、年齢、体重、背景肝障害の原因と病理学的情報、Child分類、がんの前治療歴、分子標的治療の有効性、無増悪生存期間、全生存期間、疲労倦怠感、高血圧、肝予備能悪化などの有害事象）もあわせて解析に用います。

試料・情報等は名前などがわからないようにした上で、広島大学消化器・代謝内科の研究室において分析します。免疫細胞の遺伝子・タンパク質発現や受容体の多様性、腫瘍細胞の遺伝子変異、血液中の腫瘍増殖や免疫状態と関係するケモカイン・サイトカインの解析を行います。

共同研究機関

エーザイ株式会社（メディカル本部長 吉村 祐太）

試料・情報の管理責任者

広島大学 大学院医系科学研究科医療イノベーション 共同研究講座教授 茶山 一彰

個人情報の保護について

本研究は広島大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会・疫学研究倫理審査委員会で審査を受けて承認をされています。研究は、プライバシー保護に十分留意して行います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

広島大学病院がん化学療法科 講師 山内 理海

TEL: 082-257-5191 E-mail: myamauchi@hiroshima-u.ac.jp